株式会社 地域環境計画

2005. No.25

News Letter

キバネクロバエの虜

◆キバネクロバエ◆

キバネクロバエは、大きさが10～13㎜ほどの大型のハエで、青藍色に輝く体にすらりと伸びた目立つ黄色い翅を備えています。

クロバエと名は付いていますが、イエバエ科に属し、北海道と本州に分布しています。

その生態については詳しくは知られていないようですが、主に山地でみられ、動物の糞から発生し、特に、北海道ではヒグマ、本州ではツキノワグマの糞につくとされています。

特定の動物やその糞、巣などからの発生が報告されているハエ類は他にも多く知られています。同じくクマの糞から発生するとされるタテヤマミドリイエバエ、野鳥の雛の皮下に寄生するヤドリトリキンバエ、野鳥の巣から発生するトリノストゲアシイエバエ、変わったところでは、北海道の高山のガレ場にのみ生息するナキウサギに寄生するナキウサギヒフバエなどがそうです。

動物体そのものに寄生する場合、その寄生形態には様々あり、例えば、栄養となる体液などを少しずつ吸収するため、寄主を殺してしまうことなく、ともに元気に成長していくタイプ、その成長が寄主の生存に大きな影響を与え、最終的には、寄主が衰弱して死んでしまうタイプなどがあります。また、これらの種が寄主に依存する度合いも様々なようで、心に決めた相手でなければ絶対にダメという場合から、ある程度似ていれば多少の違いは許容範囲という場合まであるようです。

前述のヒグマの糞につく2種類のハエの場合でも、タテヤマミドリイエバエは、やや深い山地で、明らかにヒグマの生息圏と思われる場所に生息していたのですが、キバネクロバエについては、市街地中心を流れる、クマが発見されれば大騒ぎとなるような河川の河川敷でも目撃した

◆クマ糞◆

ことがあります。一体何の糞についていたのか、確かなことはわかりませんが、キバネクロバエは、これらのハエ類の中では意外に浮気性、言い換えれば、たくましい部類に入るのかもしれません。

いずれにしても、これら特定の寄生・食性対象を持つ昆虫類は、その存続をそれぞれの寄主の生息状態に依存しています。これらの昆虫類を保全することは、寄主を含めたより大きな環境の保全へと繋がって行きます。彼らは一寸の小さな体ながらも、大きな力を秘めているのです。

(北海道支社自然環境研究室・稲守 恵)

目次

エッセイ　キバネクロバエの虜 ―― 1
研究紹介　ゴイサギの採餌生態にみる鳥類の採餌環境の使い分け ―― 2
マンガ　調査員物語 ―― 6
Information　BOOK　ランドスケープGIS ―― 7
ある日のフィールドノートから　鳥の渡り ―― 8